



- ◎鹿ヶ谷 泉屋博古館の特別展見学とゆったりと時が流れる東山遠望
- ◎若王子山上にある同志社創立者新島襄の墓所から南禅寺へ下る
- ◎謡曲「小鍛冶」に謡われる鍛冶伝承地 京都七口の一つ栗田口



同志社の創立者新島襄と左妻八重の墓 2019.10.9.



垂直の岩壁をまわりこんだ岩の滝台跡の小さな建屋の前階段をも登って暗い窟の中へ 2019.10.9.



行場前の橋からながめる駒ヶ滝全景 2019.10.9.
暗くてよく見えなかった行場がよくわかるのですが、中央の駒の滝は明るすぎてよく見えす。



泉屋博古館

新島襄の墓
同志社共同墓地
若王子山上

南禅寺

最勝院
駒ヶ滝

栗田口

踏上

東山越

東山

**鹿ヶ谷から若王子山上 新島襄の墓・駒ヶ滝の行場から南禅寺へ
東山の山裾巡り 謡曲「小鍛冶」に謡われる鍛冶伝承地 京口「栗田口」へ
謡曲「小鍛冶」伝承の栗田口を訪ねました 2019.10.9.**

- ◎ 鹿ヶ谷 泉屋博古館の特別展見学とゆったりと時が流れる東山遠望
- ◎ 若王子山上にある同志社創立者新島襄の墓所から南禅寺へ下る
- ◎ 謡曲「小鍛冶」に謡われる鍛冶伝承地 京都七口の一つ栗田口

京都東山の鹿ヶ谷にある泉屋博古館の特別展「住友財団修復助成30年記念文化財よ、永遠に」に出かけるのを機会に以前から気になっていた京都東山山麓 鹿ヶ谷泉屋博古館を起点に若王子山を登り、静寂の中で眠る新島襄の墓にお参り。山中 幻想的な雰囲気漂う駒ヶ滝の行場から南禅寺へ。そして、すぐそば蹴上から三条大橋へと続く旧東海道
謡曲「小鍛冶」に謡われる古代鍛冶の伝承地 栗田口を訪ねました。
今日一番の目的は謡曲「小鍛冶」に謡われた鍛冶伝承の地 東山越京口の栗田口を訪ねる古代の鍛冶伝承地の痕跡walk
良く知る界限ですが、知っているようで知らなかった若王子山そして京口「栗田口」の初秋京都東山の山裾Walkです



鹿ヶ谷 泉屋博古館中庭から眺める大文字火床 2019.10.9.

京都東山鹿ヶ谷 泉屋博古館を訪ねるのも久しぶり

泉屋博古館は東山鹿ヶ谷の麓 銀閣寺から疎水沿い哲学の小道を歩いて若王子神社の横から西へ坂をくだれば博古館。

中国の殷・周時代の青銅器コレクションで有名。また、東山山麓の散策がてら訪れて、緑に包まれた静かな雰囲気を楽しめるのが魅力。

今回は特別展「住友財団修復助成30年記念 文化財よ、永遠に」住友財団文化財修復助成によって よみがえった国宝や重文を含む文化財の展示とその修理の最前線を見るのが目的。

久しぶりに鹿ヶ谷の泉屋博古館の中へ。





泉屋博古館は世界的な殷・周時代の中国青銅器の常設展示ほか数多くの住友コレクション等を特別展・企画展を催し展示公開している。

泉屋博古館 特別展「文化財よ、永遠に」2019.10.9.

住友財団修復助成30年記念 文化財よ、永遠に
住友財団文化財修復助成によって近年よみがえった国宝や重文を含む文化財を展示し、その修理の最前線を紹介。

泉屋博古館 京都会場では、修復された古都ゆかりの文化財を展示。歴史に育まれた思想や信仰、さらには洗練された美意識をも感じとっていただけると幸いです。

修理して、伝える



住友財団修復助成30年記念 特別展
文化財よ、永遠に

2019年
9月6日(金) -
10月14日(月祝)

住友コレクション
泉屋博古館
SEN'OU HAKOKU MUSEUM
〒600-8585 京都市中京区錦町
TEL 075-211-1111
<http://www.sen.or.jp/>



鹿ヶ谷 泉屋博古館 2019.10.9.



鹿ヶ谷 泉屋博古館中庭から眺める大文字火床 2019.10..9.
私にはこの中庭から眺める景色が好きで時折訪ねる

京都東山鹿ヶ谷にある泉屋博古館を訪ねるのも久しぶり

泉屋博古館は東山鹿ヶ谷の麓 銀閣寺から疎水沿い哲学の小道を歩いて若王子神社の横から西へ坂をくだれば博古館。

中国の殷・周時代の青銅器コレクションで有名。また、東山山麓の散策がてら訪れて、緑に包まれた静かな雰囲気を楽しめるのが魅力。

私は収蔵品を見学した後 博古館の中庭の端に座って大文字の火床を眺めるのが好きで、時折京都に行くと出かける博物館である。

今回は。特別展「住友財団修復助成30年記念 文化財よ、永遠に」住友財団文化財修復助成によって よみがえった国宝や重文を含む文化財の展示とその修理の最前線。

久しぶりにまじかで仏像や絵図等の美術品を見られました。

特別展開催で いつもより人は多かったのですが、好きな十二神将像が見られて満足。

また 快晴の秋の空を背に大文字火床の遠望も楽しめ、ゆっくりと時間をすごすことができました。 2019.10.9.



**鹿ヶ谷から若王山を登って 新島襄の墓に参って、幻想的な駒ヶ滝から
南禅寺へ出て、南禅寺の境内から謡曲「小鍛冶」の鍛冶伝承地へ**

謡曲「小鍛冶」に謡われた刀匠三条宗近 鍛冶伝承の地

三条通 旧東海道の京口 栗田口を訪ねました



- ◎ 若王子山山上同志社創立者新島襄の墓所から
幻想的な山中 駒ヶ滝の行場から南禅寺へ
- ◎ 謡曲「小鍛冶」に謡われる鍛冶伝承地栗田口walk

若王子新島襄の墓所への登り口は博古館のすぐ東、
若王子神社のそばでよく知るのですが、ここから東山の山中へ登った入ことなし。
栗田口に住む刀工(小鍛冶)三条宗近が夢枕に立った信仰する稻荷明神の狐姿の化身を
相槌に 名刀「子狐丸」を打ち上げたという謡曲「小鍛冶」の伝承地「栗田口」。
何度も通るのですが、先日TVで鍛冶神社・合槌神社などが今も残っていると知って、
三条宗近の鍛冶屋敷栗田口の家並の中をゆっくり歩いてみたくなりました。

この謡曲小鍛冶に謡われた稻荷明神の化身を相槌に名刀「子狐丸」を打つ伝承はすぐ東へ
山越した隣の山科盆地の花山稻荷神社にも残っている。

ふたつの伝承の出どころはおそらく同じ。

でも 伝承は平安時代末 東山を挟む2つの街 同じ京都とはいえ違う町。なにかありそうと。

この京都栗田口からの東山越 山科・近江への道は北側は東山如意が岳(大文字山)の南山麓で、

この一帯は古代の鉄鉱石資源帯そして如意が岳南製鉄遺跡群が点在する地域。

そして栗田口は交通の東海道の京口であり、でにぎわう鍛冶屋敷町。

稻荷信仰と鍛冶信仰とが合体して生まれた「小鍛冶」の伝承。

なぜ栗田口の刀匠鍛冶たちが稻荷山信仰なのか？との疑問も頭をよぎる。

西の伏見側から稻荷山から大勢の人たちが登るのが現代の参詣道。

でも伏見側から登ると今も稻荷明神が現れそうな静かな心霊スポットを感じさせる古い参詣道である。

鍛冶伝承を頭に描きつつ、しっかり歩いたことのない栗田口界隈を初めて歩きました。

栗田口は東山を越えて京都へ入る坂道 旧東海道
三条通の東側蹴上から西の神宮道までの界限
かつてこの界限には数多くの鍛冶職・刀鍛冶が住
まいし、彼らが信仰する稲荷信仰とが融合した
鍛冶伝承が生まれたという。



謡曲「小鍛冶」に謡われるの鍛冶伝承地

東山越 栗田口 & 山科・稲荷山

伝承地・鍛冶伝承の概 要



京都栗田口の鍛冶伝承関連Map

謡曲「小鍛冶」は
名刀工三業小鍛冶宗近が、
稲荷大明神の相槌で、
名劔小狐丸を打ち上げる
という物語。
刀鍛冶の伝説と稲荷信仰
とが合体してできた曲と
いわれています。



謡曲「小鍛冶」に詠われるの鍛冶伝承と伝承地walk
東山越 栗田口周辺MAP



謡曲「小鍛冶」に謡われるの鍛冶伝承地 栗田口周辺 walking MAP

泉屋博古館

新島襄の墓
同志社共同墓地
若王子山上

南禅寺

最勝院
駒ヶ滝

栗田口

蹴上

東山越

白川橋

祇園



謡曲「小鍛冶」と三条宗近の名刀「小狐丸」作刀伝承

京都三条栗田口栗田鍛冶町神社 & 山科花山稻荷神社

京都栗田口の鍛冶伝承関連Map

謡曲「小鍛冶」に謡われるの鍛冶伝承 関連地MAP

謡曲「小鍛冶」は、名刀工三条小鍛冶宗近が、稲荷大明神の相槌で、名劔小狐丸を打ち上げるという物語。刀鍛冶の伝説と稲荷信仰とが合体してできた曲といわれています。



京都栗田口に住む刀工(小鍛冶)三条宗近が夢枕に立った信仰する稻荷明神の狐姿の化身を相槌に名刀「子狐丸」を打ち上げたという謡曲「小鍛冶」

この伝承が刀工三条宗近が住んだという京都三条粟田口や稲荷伝承が数多く残る山科にある。すぐ北に連なる東山如意ヶ岳周辺は古代の鉄鉱石資源帯。その南西の麓粟田口には数多くの陶工たちの鍛冶屋敷があり、また、稲荷山が見晴らせる南麓の山科には古代の製鉄遺跡が数多く残る。

謡曲「小鍛冶」の舞台として広く知られる京都栗田口 三条宗近の名刀「小狐丸」作刀伝承 **京都三条栗田口栗田鍛冶町神社**

夢のお告げを受けた一条天皇(980～1011)の命により、勅使の橘道成は、刀匠として名高い三條小鍛冶宗近のもとを訪れ、劔を打つよう命じます。

宗近は、自分と同様の力を持った相槌を打つ者がおらず、打ち切れないと訴えますが、聞き入れられず、進退きわまった宗近は氏神の稻荷明神に助けを求めて参詣。そこで不思議な童子に声をかけられ、少年は宗近を励まし、相槌を勤めようと約束して稻荷山に消えていきました。

家に帰った宗近が身支度をすませて鍛冶壇に上がり、礼拝していると稻荷明神のご神体が狐の精霊の姿で現れ、「相槌を勤める」と告げる。先ほどの少年は、稻荷明神の化身だった。

明神の相槌を得た宗近は、無事に劔を鍛え上げました。

こうして表には「小鍛冶宗近」の銘、裏にはご神体が弟子を勤めた証の「小狐」の銘という、ふたつの銘が刻まれた名劔「小狐丸」が出来上がった。

明神は小狐丸を勅使に捧げた後、雲に乗って稻荷の峯に帰っていきました。

◎ 製鉄に従事するものを大鍛冶というのに対し、刀鍛冶を小鍛冶と称していました。

京都三条通の栗田口は古くからの刀鍛冶の居住地。

稻荷神社の祭神は素盞鳴尊、大己貴命で、製鉄・鍛冶と関係深い神、刀工たちの氏神として信仰されていたという。

また、鍛冶炉の鞆には山科稻荷山の土を用いていたとの伝承もある。

◎ 宗近は実在の平安中期の刀匠ですが、生没年不詳ですが、永延(987-989)の頃京都三条に住したと伝え、小狐丸をはじめ幾多の刀劔を造ったという。

現存するものとして三日月宗近などがあります。

また、祇園祭の長刀鉾の長刀は宗近が奉納したものとされています。

作刀にこのころの年紀のあるものは皆無であり、その他の確証もなく、ほとんど伝説的に扱われている。代表作として伝えられる国宝「三日月宗近」があります。

謡曲「小鍛冶」の舞台京都栗田口に残る鍛冶伝承地の痕跡

◎ 三条小鍛冶宗近之古跡の石碑 1917年建立

東山区栗田口鍛冶町(仏光寺本廟内)
拾遺都名所図会によると、佛光寺本廟境内に
刀剣を鋳るときに用いた井水があったという



◎ 合槌稻荷神社 創建年代不明

栗田口中ノ町、栗田神社の向かいの三条通りに面した場所にある。三条通り沿いの鳥居から隣接する民家の外壁に沿って細い参道が続いている。境内には正一位合槌稻荷大明神を祀る祠があり、この祠は平安時代の刀匠、三条小鍛冶宗近が稻荷大社に祈願し、狐とともに宝剣小狐丸を打ちあげたという逸話の舞台ともいう。

◎ 鍛冶神社 栗田神社参道中腹東側に位置する末社

祭神は鍛冶神天目一箇神と刀工三条小鍛冶宗近・栗田口藤四郎吉光。刀鍛冶発祥の地とも呼ばれる栗田口の数多くの刀工を顕彰するため創建されたという刃物、鍛冶及び勝運、開運の社

◎ 栗田神社

清和天皇貞観十八(876)年清和天皇の勅により、全国の諸神に「国家と民の安全を祈願」。勅使従五位上出羽守藤原興世が感神院祇園社(今の八坂神社)に祈願。
満願の夜、興世の枕元に一人の老翁が立ち、「汝すぐ天皇に伝えよ。叡慮を痛められること天に通じたる。我を祀れば、必ず国家と民は安全なり。」と告げられた。
老翁は「我は大己貴神なり。祇園の東北に清き処あり。其の地は昔、牛頭天王(ゴズテンノウ=スサノオノミコト)に縁ある地である。其処に我を祀れ。」と言い消えた。
勅命により直ちに此の地に社を建てて御神霊をお祀りしたのが始まりであるという。。
また一説には、孝昭天皇の分かれである栗田氏が此の地を治めていた時に氏神として当社を創建とも云われる。

八坂神社と同じ素盞鳴尊、大己貴命を祭神とするところから感神院新宮とよばれ、八坂神社とも関係が深い。旧社名は、感神院新宮・栗田天王宮。明治になり栗田神社と改称された。
詳細不明なるも、そのルーツに鍛冶伝承地との結びつきが見える。

京の七口の一つ栗田口に鎮座し、この地の氏神様として、古くから旅立ち守護の神として崇敬を集め、現在でも旅行に際し絵馬を奉納したり、お守りを買って求める人がいる。

境内参道脇には鍛冶神社 直ぐ北には合槌神社があり、いずれも栗田神社の末社。詳細不明

◎ 栗田口鍛冶町 この地に数多くの刀工・鍛冶屋敷があったことを町名に残している



山科 花山稲荷神社 「稲荷塚」稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説

謡曲「小鍛冶」 名刀工三条小鍛冶宗近の相植は稲荷大明神



京都市地下鉄東西線嵯峨辻駅地下通路 山科花山稲荷神社 名刀「小狐丸」の伝説
能「小鍛冶」の伝説として ほかの地にも伝承されている

三条小鍛冶が作ったと伝承される鍛冶場伝承地 遠光宮が祭られている「稲荷塚」

本殿 右側の赤い玉垣の中にあり、「稲荷塚」の石碑と元禄十二年(1699年)の銘のある石灯籠の基部が残る。また、この辺りは環濠の跡も残る中臣通跡の北端にあたり、弥生時代後期の円墳と言われる。遠光宮の御祭神などと考え合わせると、稲荷大神を勧請する前から鍛冶(製鉄)の神として祭られていたようにも思われます 花山稲荷神社ホームページより

- ◆ 古代の鍛冶伝承・稲荷伝承の残る京都山科に坂上田村麻呂の墓を訪ねる
●坂上田村麻呂墓 ●西野山山麓の鍛冶伝承地 花山稲荷神社 ●稲荷伝承の折上稲荷

<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607nishinoyama00.htm>

- ◆ 京都山科に古代のたたら跡 如意ヶ岳南製鉄遺跡群を訪ねる 2013.8.26

<https://www.infokkna.com/ironroahd/2013htm/iron09/1309yamashina00.htm>

- ◆ 稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稲荷大社へ 2016.9.13.

<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>





京都山科に残る稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説

謡曲「小鍛冶」のもととなった山科花山稲荷の名刀「小狐丸」の伝承

名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神

山科盆地の北部 大文字山から比叡山へと連なる山並みの山中には鉄鉱石があり、そこから山科盆地を流れ下る山科川はかつて砂鉄の産地だったといい、山麓には如意ヶ岳南製鉄遺跡群と呼ばれる古代たたら跡が点在する。また、この山科盆地は天智天皇の御陵に象徴される古代王城の地でもあった。以前 この山科盆地北部のたたら跡を訪ねた時に、この地にも 古い鍛冶伝承が残っていると思いながら、よう見つけなかった。

今回 西野山の坂上田村麻呂の墓を訪れる機会に西野山周辺を歩こうと地下鉄 柳辻駅へ降り立ち、駅の地下通路の壁のタイルに上記した山科の鍛冶伝説を伝えるタイルをみつけ、一緒に訪ねてきました。

山科花山稲荷に伝わる名刀「小狐丸」の伝承

ある夜、一条天皇(980~1011年)が不思議な夢を見られて、当時名工として知られた三条の小鍛冶宗近に御剣を打つことを命ずる為に、橘道成を勅使として遣わされました。

宗近は宣旨を承りはしたものの、一人では御剣を打つことが出来ません。相槌に優れた者が居なくて困った宗近は、神にすがるとより仕方ないと思い、氏神である稲荷明神に祈願のために出かけます。

すると一人の童子が現れて、不思議にもその童子は既に勅命を知っており、「君の恵みによって御剣は、必ず成就するであろう」と安心させます。そして、和漢の銘剣の威徳や故事を述べ、特に日本武尊の草薙剣の物語を詳しく語って聞かせ、「通力の身を変じて力を添えよう」と言って、稲荷山に消えていきます。

宗近は屋敷に戻って、しめ縄を張った壇をしつらえ、童子の教えのままに剣を打つ支度を調べて、祝詞を唱えて待ち構えていると、稲荷明神からの使いの狐が現れて、相槌となって御剣を打つのを手伝ってくれたのでした。やがて御剣は完成し、表に小鍛冶宗近、裏には小狐と銘を入れ、勅使に捧げると、狐は再び稲荷山に帰っていく。



三条宗近が稲荷明神の化身とともに作刀する謡曲「小鍛冶」 謡曲「小鍛冶」と三条宗近の名刀「小狐丸」作刀伝承 京都三条栗田口栗田鍛冶町神社 & 山科花山稲荷神社



謡曲「小鍛冶」は
名刀工三条小鍛冶宗近が、
稲荷大明神の相槌で、
名劔小狐丸を打ち上げる
という物語。
刀鍛冶の伝説と稲荷信仰
とが合体してできた曲と
いわれています。

京都栗田口に住む刀工(小鍛冶)三条宗近が夢枕に立った信仰する稲荷明神の狐姿の化身を
相槌に名刀「子狐丸」を打ち上げたという謡曲「小鍛冶」
この伝承が刀工三条宗近が住んだという京都三条栗田口や稲荷伝承が数多く残る山科にある。
北に連なる東山如意ヶ岳周辺は古代の鉄鉱石資源帯 南西の麓栗田口には数多くの陶工たちの
鍛冶屋敷があり、また 稲荷山が見晴らせる南麓の山科には古代の製鉄遺跡が数多く残る。
古代の製鉄関連地の刀鍛冶の伝説と稲荷信仰とが合体してできた曲といわれる

謡曲「小鍛冶」に謡われるの鍛冶伝承地栗田

口周辺 walking MAP

若王子山の登り口は若王氏神社の横から

- ◎ 若王子山上にある同志社創立者新島襄の墓所から南禅寺へ下る
- ◎ 謡曲「小鍛冶」に謡われる鍛冶伝承地 京都七口の一つ栗田口Walk 鹿ヶ谷の博古館から、東山の山裾 若王子山へ分け入って 新島襄の墓・幻想的な駒ヶ滝行場を経て南の南禅寺界限へ降り、西の栗田口界限へゆく 2019.10.9. walking Map

泉屋博古館

新島襄の墓
同志社共同墓地
若王子山上

琵琶湖疎水

南禅寺

最勝院
駒ヶ滝

栗田口

蹴上

東山越

白川橋

祇園

東山

新島義の墓
同志社共同
墓地

若王子山

若王子
神社

若王子橋

駒ヶ滝
行場

南禅寺
最勝院

南禅寺

疎水水路閣



博古館を出て 東へ住友別邸に沿って 家並みを抜けると 東山の山裾
疎水に沿って南北に哲学の小道・若王子橋 若王子神社前である 2019.10.9.



若王子橋を渡り 若王子神社に沿う道を少し入り、Y字の分岐右の家並に入る細い路地奥に新島襄・八重の墓の案内標識が見える ここが登り口 2019.10.9.

◆ 泉屋博古館から若王子山山上の新島襄の墓所へ 2019.10.9.





同志社共葬墓地



寝八重の墓
15分

若王子山山上への登り口、2019.10.9.
ここからは整備された小さな谷筋を登ってゆく山道
入口に山上の墓地まで15分の標識が建っている



若王子山山上穂地へ登ってゆく山道 2019.10.9.
ところどころに切り石が敷き詰められた雑木林の中の山道を山腹に沿って登る



山道のところどころに鉄分で真っ赤になった石ころや山肌が見える
この大文字山の南山腹は古代の鉄鋼関資源帯 その一番西のあたりで
鉄分が多く含まれている。 **東山 若王子山の山道で 2019.10.9.**
この周辺に鍛冶伝承や稻荷山信仰の起こる素地なのかもしれぬ



京都市若王子山墓地が見える若王子山山上 2019.10.9.

A photograph of a cemetery path. The path is made of stone slabs and leads through a dense forest of tall trees with green and yellowing leaves. Several tombstones of various shapes and sizes are visible along the path. The scene is brightly lit by sunlight filtering through the trees.

京都市営若王子山墓地 この奥が同志社の創立者新島襄の墓がある同志社共同墓地だった 2019.10.9.



同志社共同墓地 正面入口前
正面奥に見えるのが 同志社の創立者新島襄の墓 2019.10.9.



同志社の創立者新島襄 と 左 妻八重の墓 2019.10.9.



同志社共同墓地の正面すぐ手前左脇に新しい墓標が見え、
今もこの墓地に新しい墓を作る方もいらっしゃるのだと。
墓標を見てびっくり。学生時代の芦田譲治先生の墓だった。
安保紛争の混乱時代の学生部長 学生時代を思い出しつつ、
手を合わせました。

◆ 若王子山山上から駒ヶ滝を経て南禅寺へ 2019.10.9.





若王子山山上からなたらかな山腹を東側に回り込みながら、
南に下って南禅寺界隈へ。初めての道ですが、しっかりした道なので心配は
ない。但し 集中豪雨の痕跡 倒木が道のあちこちに。 2019.10.9.



なたらかな山腹を東側から南側に回り込んで谷筋を下って行く。
2019.10.9.



なたらかな山腹を東側から南側に回り込んで、谷筋を下って行く。
2019.10.9.

A photograph of two people hiking on a dirt path through a dense forest. The person in front is wearing a blue shirt and dark shorts, and the person behind is wearing a white shirt and dark pants. The path is surrounded by tall trees and thick foliage, with sunlight filtering through the leaves. The text is overlaid at the bottom of the image.

この谷筋を登ってくる人に初めて出会い、この道を下れば南禅寺
琵琶湖疎水水路閣の横に下って行くと教えてもらう。

2019.10.9.



狭い谷筋を抜け、正面が明るくなってきた。何組も外人たちが登ってくるのに出会う。南禅寺最勝院駒ヶ滝の行場のすぐ上。
静寂に包まれたパワースポットの雰囲気漂っている。 2019.10.9.

新島襄の墓
同志社共同
墓地

若王子山

若王子
神社

若王子橋

現在地駒の滝の上周辺★

駒ヶ滝
行場

南禅寺
曼勝院

南禅寺

疎水水路閣



周囲がパッと明るくなって崖の上
左手谷に苔むした大きな岩が直立し、この岩に沿って下る狭い谷筋道と
崖の上をまわりこんで谷へ下りてゆく道ゆく道との分岐。
谷道を降りた後でわかったのですが、この崖上の道が駒ヶ滝の落ち口でした





苔むした大きな岩が直立し、この岩を下へ回り込み下へ降りてゆく。
この大きな岩回り込むと反対側の面の中ほど窟屋があり、
大日如来と将軍地藏菩薩が祀られていました。
この崖上を左へそのまま進むと駒ヶ滝の落ち口を経て、谷筋道と下で合流できる。

當寺の由来

此處より奥駒ヶ滝最勝院一帯の山峡は古く鎌倉時代より「神仙佳境」と呼ばれ、最勝院の案内板に書かれています。知りませんでした。昔からのホットスポット。

道智大僧正の靈地として、今を距る七百数十年前、比叡山に登り、仙道修行の道に入られ、天台密教の深奥を極めた人であり、更には當時天台密教の寺であつた禅林寺の住持に移られました。晩年世をいたし、この駒ヶ滝最勝院の地に秘蔵され、文永三年三月三日ついに秘密の法力により白馬にまたがり生身を天空にかくされたと伝えられています。それ以来、駒ヶ滝（これより奥約二〇〇米）僧正を駒大僧正といひ、又院号をとつて僧正をまつる寺を最勝院と呼ぶことになりました。

鎌倉時代末、文永年間、龜山天皇が此の下に離宮を建てられ、更に離宮を革めて禅寺を創建して、南禅寺の基を開かれ、爾來七百年、南禅寺一山の崇敬はもとより、広く京都の人々の信仰の一中心となり、古來勝運の神として参詣者が跡を絶ちません。

當寺は即ち駒大僧正をまつた本堂であり、駒ヶ滝はその奥の院であります。明治の末年迄はこの下の南禅寺寺務所の地にあり、最勝院般若殿と呼ばれていました。が大正六年夢窓国師の塔所上生院の故地である現在の地に移転したのであります。

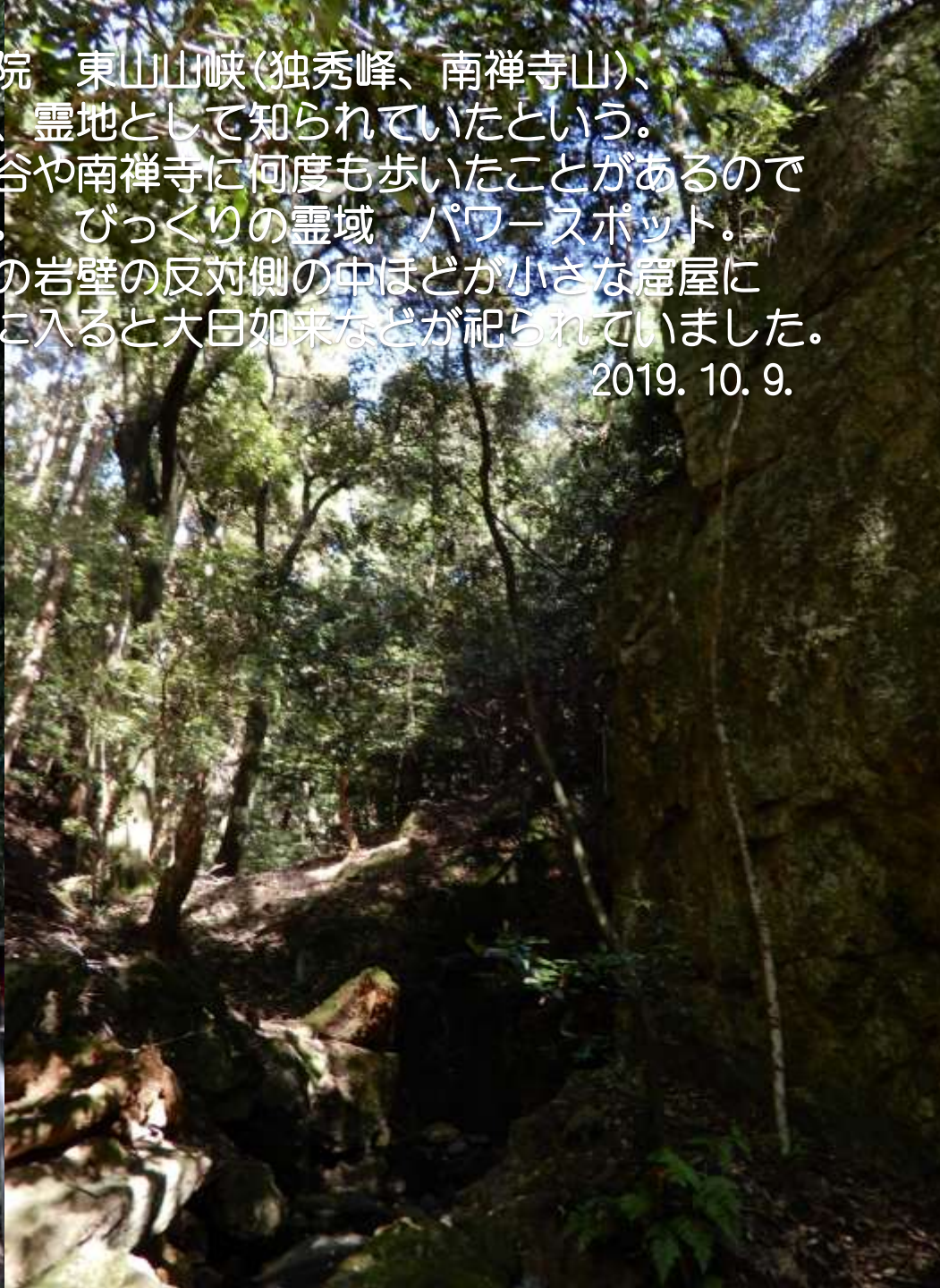
以上

駒ヶ龍本堂最勝院

山から下りてきたので逆になりますが、この駒ヶ滝周辺は南禅寺最勝院の奥の院の中にあり、鎌倉時代より「神仙佳境」と呼ばれ、靈地として知られていたと下の最勝院の案内板に書かれています。

この辺りは南禅寺最勝院の寺域奥の院 東山山峡(独秀峰、南禅寺山)、
鎌倉時代より「神仙佳境」と呼ばれ、霊地として知られていたという。
大文字山や大文字火床から南の鹿ヶ谷や南禅寺に何度も歩いたことがあるので
すが、この周辺には全く記憶がない。 びっくりの霊域 パワースポット。
直立した岩壁の下をまわりこむとこの岩壁の反対側の中ほどが小さな窟屋に
なっていて、階段を登って暗い窟屋に入ると大日如来などが祀られていました。

2019. 10. 9.





苔むした大きな岩が直立し、この岩を下へ回り込み下へ降りてゆく。
この大きな岩回り込むと反対側の面の中ほど窟屋があり、大日如来と
將軍地藏菩薩が祀られていました。



垂直の岩壁をまわりこんだ駒の滝谷筋の小さな窟屋の前
2019. 10. 9.



垂直の岩壁をまわりこんだ駒の滝谷筋の小さな窟屋の前
階段をむ登って暗い窟屋の中へ 2019. 10. 9.



奥には暗くてよく見えませんが、大日如来が祀られ、
手前右側には 身に甲冑をつけた戦勝の地蔵菩薩。
鎌倉時代以後、武家の間で信仰されたといい、
この南禅寺最勝院奥の院 駒ヶ滝の行場が開かれた
鎌倉時代との結びつきがうかがえる。



窟屋の前から階段道を谷へ下りる。 2019. 10. 9.
橋のところから谷を渡らずに右にたどると正面に糸を垂らした
ごとく駒ヶ滝。駒の滝の行場がみえる。
また、橋を渡ると谷の向こう側 駒ヶ滝の前に最勝院奥の院
祭事場と駒大僧正を奉る小さな祠が建っている。
霧田気ともども まさにパワースポットの中心分佈



窟屋からの階段を下りて、駒の滝行場の前に 2019. 10. 9



日陰になってよく見えないが正面 中央真上から駒の滝が流れ落ちる
駒ヶ滝の行場 2019. 10. 9。
最近は滝にうたれる人も少なくなったが、今も続く行場



日陰になってよく見えないが正面に駒の滝が流れ落ちる
駒ヶ滝の行場 2019. 10. 9



行場の中心部に入るのは本当に久しぶり
最近のパワースポットというと自然の樹木や石に霊力を求める場合が多い
が、古くから続く周りの自然と一体となった行場の雰囲気惹かれます。
そんな日本の自然の中に、外人が多く惹かれてる・・・
日本人もっとそんな自然に目をむけてもいいのでは・・・と



行場前の橋からながめる駒ヶ滝全景 2019. 10. 9.

暗くてよく見えなかった行場がよくわかるのですが、
中央の駒の滝は明るすぎてよく見えず。



橋まで戻って 谷の向こう奥の院を通って南禅寺へ 2019. 10. 9.



南禅寺 最勝院 奥の院 2019. 10. 9.
この祭事場の正面奥に駒大僧正を奉る祠があり、
さらに奥が駒ヶ滝 2019. 10. 9.



最勝院奥の院から南禅寺へ



最勝院の境内を南禅寺へ下る 2019. 10. 9.



遠く京都の市街地・愛宕山も遠望 緑に包まれた参道をくだり、最勝院の本堂横。
もうすぐそこが南禅寺の境内。琵琶湖疎水の流れる水路閣。 雑踏の中へ



南禅寺の塔頭最勝院の本堂

2019.10.9.



最勝院のすぐ下 多くの人が行き来する見慣れた南禅寺の境内への道
すぐ前に琵琶湖疎水の水路 水路閣の端部が見える 2019.10.9.

多分はじめてだろう 記憶にない若王子山からの南禅寺への山道
新島襄の墓に出会え、幻想的な隠れスポット 駒ヶ滝の行場にも出会えうれしい。
手短に歩けるwalking ルート。山が紅葉したら再度歩こうと。
今日は栗田口の鍛冶伝承の痕跡を訪ねるので、
蹴上に行かずそのまま水路閣から南禅寺境内を抜けて栗田口へ 2019. 10. 9.



南禅寺の境内 琵琶湖疎水の水路 水路閣 2019.10.9.





小方丈庭園



南禅寺 方丈庭園を見るのも久しぶり 2019.10.9.



南禅寺 南大門から今歩いてきた東山を眺める 2019.10.9.





琵琶湖疎水 蹴上インクライン 2019.10.9

南禅寺からまっすぐ坂道を下ると琵琶湖疎水のインクラインをくぐる橋の上
北側に鴨川に続く琵琶湖疎水の船着き場が見える

反対側は蹴上へ登るインクライン 蹴上から琵琶湖疎水の山科運河に入って
琵琶湖へ出る。 また この琵琶湖疎水の水を使った水力発電所を使って
日本で初めて京都で市電が走った。



**南禅寺の南側 蹴上から三条大橋へ東西に延びる坂道 三条通
旧東海道の京口 三条通りに沿って広がる家並み 栗田口
東山越の山裾 謡曲「小鍛冶」に謡われるの鍛冶伝承地
今に残る古い鍛冶伝承の痕跡を探して
京都七口の一つ 三条通 栗田口walk 2019.10.9.**

稲荷明神の化身を相槌に栗田口の刀匠 三条宗近が 名刀「子狐丸」を打つ
謡曲「小鍛冶」に謡われた鍛冶伝承
伝承の地「栗田口」の家並の中に古代の鍛冶伝承の痕跡を訪ねる街歩き

栗田口は何度も通ったことのある地で、謡曲「小鍛冶」に謡われる古代鍛冶屋敷町との鍛冶伝承の地であることはよく知っていましたが、鍛冶伝承地をキーワードに栗田口の街並みの中を歩くのは初めて。

たまたま見たTVの栗田口のルポ番組で、謡曲「小鍛冶」の伝承が紹介され、今も鍛冶神社・合槌神社が街に存在。そして栗田口の街の中心 栗田神社は祇園八坂神社と同じ出雲の鍛冶開拓神 素盞鳴尊、大己貴命を御祭神とし、祇園祭の鉾巡行の先頭を行く長刀鉾が掲げる剣が「小鍛冶」伝承の主 刀匠三条宗近が奉納した剣であるとの伝承など鍛冶町としての伝承が 今もこの街で生きていますと知りました。

また、この地が旧東海道東山越の京口の鍛冶町であるばかりでなく、この東山から稲荷山に延びる山並みの北部一帯は古代の鉄資源帯であり、栗田口を東に越えた山科にも同じ謡曲「小鍛冶」の伝承があり、そして当地に住む刀鍛冶たちが鞆を作る土としてこの稲荷山・東山の赤土を通じて、稲荷神を信仰していたことも垣間見える。

ばらばらに知っていたこの東山周辺の鍛冶伝承の知識が なにか一つに繋がっていると感じ始め、ゆっくり栗田口の街を歩いてみたいと。

そして、鍛冶町だったこの栗田口の血が今も連綿と受け継がれていると感じた街歩きになりました

栗田口は東山を越えて京都へ入る坂道 旧東海道
三条通の東側蹴上から西の神宮道までの界限
かつてこの界限には数多くの鍛冶職・刀鍛冶が住
まいし、彼らが信仰する稲荷信仰とが融合した
鍛冶伝承が生まれたという。



謡曲「小鍛冶」の舞台として広く知られる京都栗田口 三条宗近の名刀「小狐丸」作刀伝承 **京都三条栗田口栗田鍛冶町神社**

夢のお告げを受けた一条天皇(980～1011)の命により、勅使の橘道成は、刀匠として名高い三條小鍛冶宗近のもとを訪れ、劔を打つよう命じます。

宗近は、自分と同様の力を持った相槌を打つ者がおらず、打ち切れないと訴えますが、聞き入れられず、進退きわまった宗近は氏神の稲荷明神に助けを求めて参詣。そこで不思議な童子に声をかけられ、少年は宗近を励まし、相槌を勤めようと約束して稲荷山に消えていきました。

家に帰った宗近が身支度をすまして鍛冶壇に上がり、礼拝していると稲荷明神のご神体が狐の精霊の姿で現れ、「相槌を勤める」と告げる。先ほどの少年は、稲荷明神の化身だった。

明神の相槌を得た宗近は、無事に劔を鍛え上げました。

こうして表には「小鍛冶宗近」の銘、裏にはご神体が弟子を勤めた証の「小狐」の銘という、ふたつの銘が刻まれた名劔「小狐丸」が出来上がった。

明神は小狐丸を勅使に捧げた後、雲に乗って稲荷の峯に帰っていきました。

◎ 製鉄に従事するものを大鍛冶というのに対し、刀鍛冶を小鍛冶と称していました。

京都三条通の栗田口は古くからの刀鍛冶の居住地。

稲荷神社の祭神は素盞鳴尊、大己貴命で、製鉄・鍛冶と関係深い神、刀工たちの氏神として信仰されていたという。

また、鍛冶炉の鞆には山科稲荷山の土を用いていたとの伝承もある。

◎ 宗近は実在の平安中期の刀匠ですが、生没年不詳ですが、永延(987-989)の頃京都三条に住したと伝え、小狐丸をはじめ幾多の刀劔を造ったという。

現存するものとして三日月宗近などがあります。

また、祇園祭の長刀鉾の長刀は宗近が奉納したものとされています。

作刀にこのころの年紀のあるものは皆無であり、その他の確証もなく、ほとんど伝説的に扱われている。代表作として伝えられる国宝「三日月宗近」があります。

東山越を挟んで東の山科にも同じ三条宗近の名刀「小狐丸」作刀伝承が残っている

とちらも北に古代の鉄資源帯如意ヶ岳製鉄遺跡群 南には稲荷信仰の中心稲荷山がそびえる位置にあり、出どころは同じと思われる

謡曲「小鍛冶」の舞台京都栗田口に残る鍛冶伝承地の痕跡

- ◎ 三条小鍛冶宗近之古跡の石碑 1917年建立
東山区栗田口鍛冶町(仏光寺本廟内)

拾遺都名所図会によると、佛光寺本廟境内に
刀剣を鋳るときに用いた井水があったという

- ◎ 合槌稻荷神社 創建年代不明

栗田口中ノ町、栗田神社の向かいの三条通りに面した場所にある。

三条通り沿いの鳥居から隣接する民家の外壁に沿って細い参道が続いている。

境内には正一位合槌稻荷大明神を祀る祠があり、この祠は平安時代の刀匠、三条小鍛冶宗近が稻荷大社に祈願し、狐とともに宝剣小狐丸を打ちあげたという逸話の舞台ともいう。

- ◎ 鍛冶神社 栗田神社の参道入口石鳥居脇にある栗田神社の末社

祭神は天目一箇神 三条小鍛冶宗近・栗田口藤四郎吉光を祀る鍛冶の神様。

この栗田口の数多くの刀工たちを顕彰するために創建されたというが、定かでない。

- ◎ 栗田神社

清和天皇貞観十八(876)年清和天皇の勅により、全国の諸神に「国家と民の安全を祈願」。

その際 勅使従五位上出羽守藤原興世が、感神院祇園社(今の八坂神社)に祈願。

その満願の夜、興世の枕元に一人の老翁が立ち、「汝すぐ天皇に伝えよ。叡慮を痛められること天に通じたる。我を祀れば、必ず国家と民は安全なり。」と告げられた。

老翁は「我は大己貴神なり。祇園の東北に清き処あり。其の地は昔、牛頭天王(ゴズテンノウ=スサノオノミコト)に縁ある地である。其処に我を祀れ。」と言われて消えられました。

勅命により直ちに此の地に社を建てて御神霊をお祀りしたのが始まりであるという。。

また一説には、孝昭天皇の分かれである栗田氏が此の地を治めていた時に氏神として当社を創建とも云われる。

八坂神社と同じかじ神・出雲神 素盞鳴尊、大己貴命を祭神とするところから感神院新宮とよばれ、八坂神社とも関係が深い。旧社名は、感神院新宮・栗田天王宮。明治になり栗田神社と改称された。詳細不明なるも、そのルーツに鍛冶伝承地との結びつきが見える。

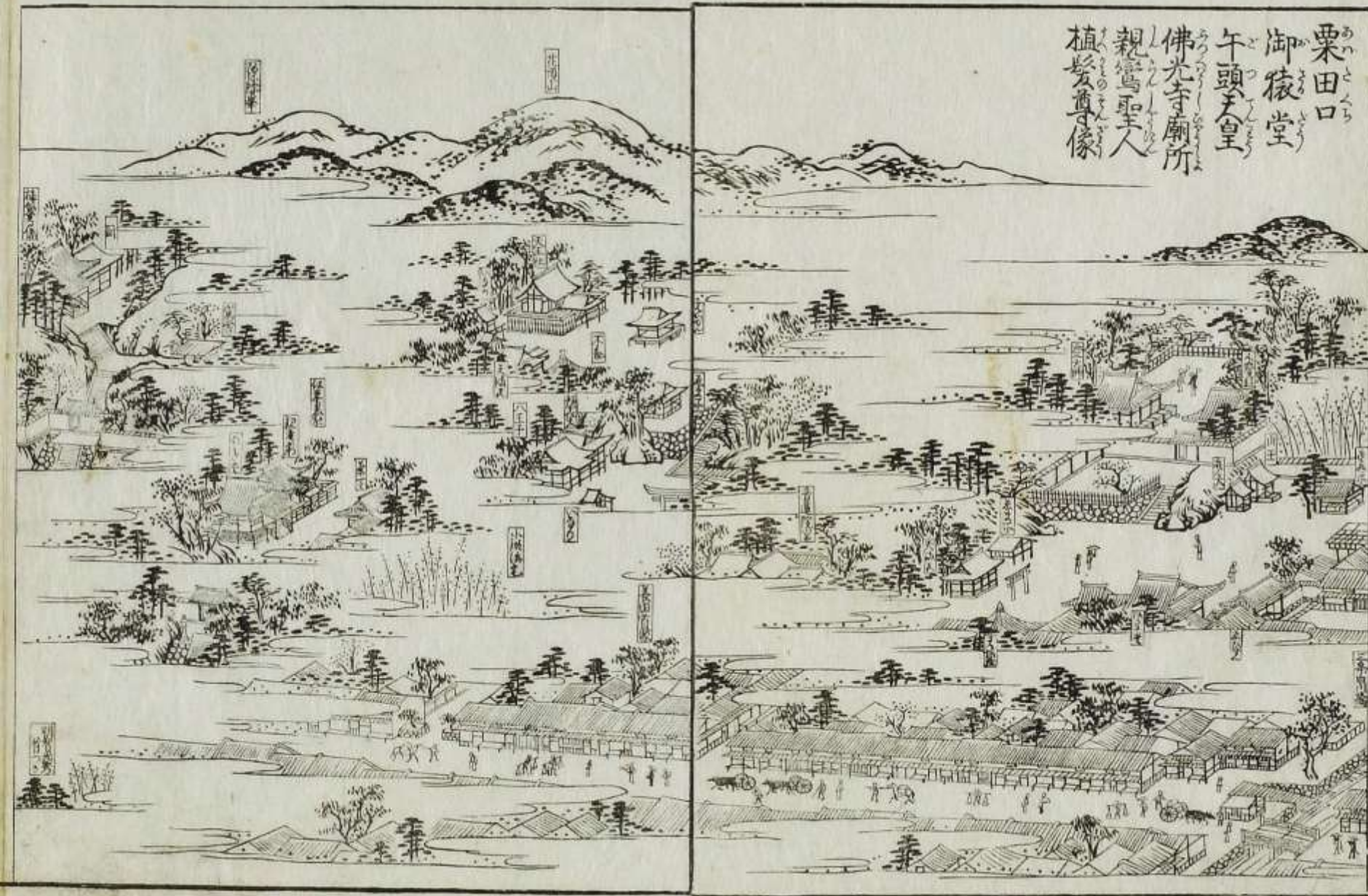
京の七口の一つ栗田口に鎮座し、この地の氏神様として、古くから旅立ち守護の神として崇敬を集め、現在でも旅行に際し絵馬を奉納したり、お守りを買って求める人がいる。

境内には鍛冶神社 そして直ぐ向かいにの街中に 合槌神社があり、いずれも栗田神社の末社。

- ◎ 栗田口鍛冶町 この地に数多くの刀工・鍛冶屋敷があったことを今の町名に残している



栗田口
御猿堂
午頭天皇
佛光寺廟所
親鸞聖人
植髪尊像

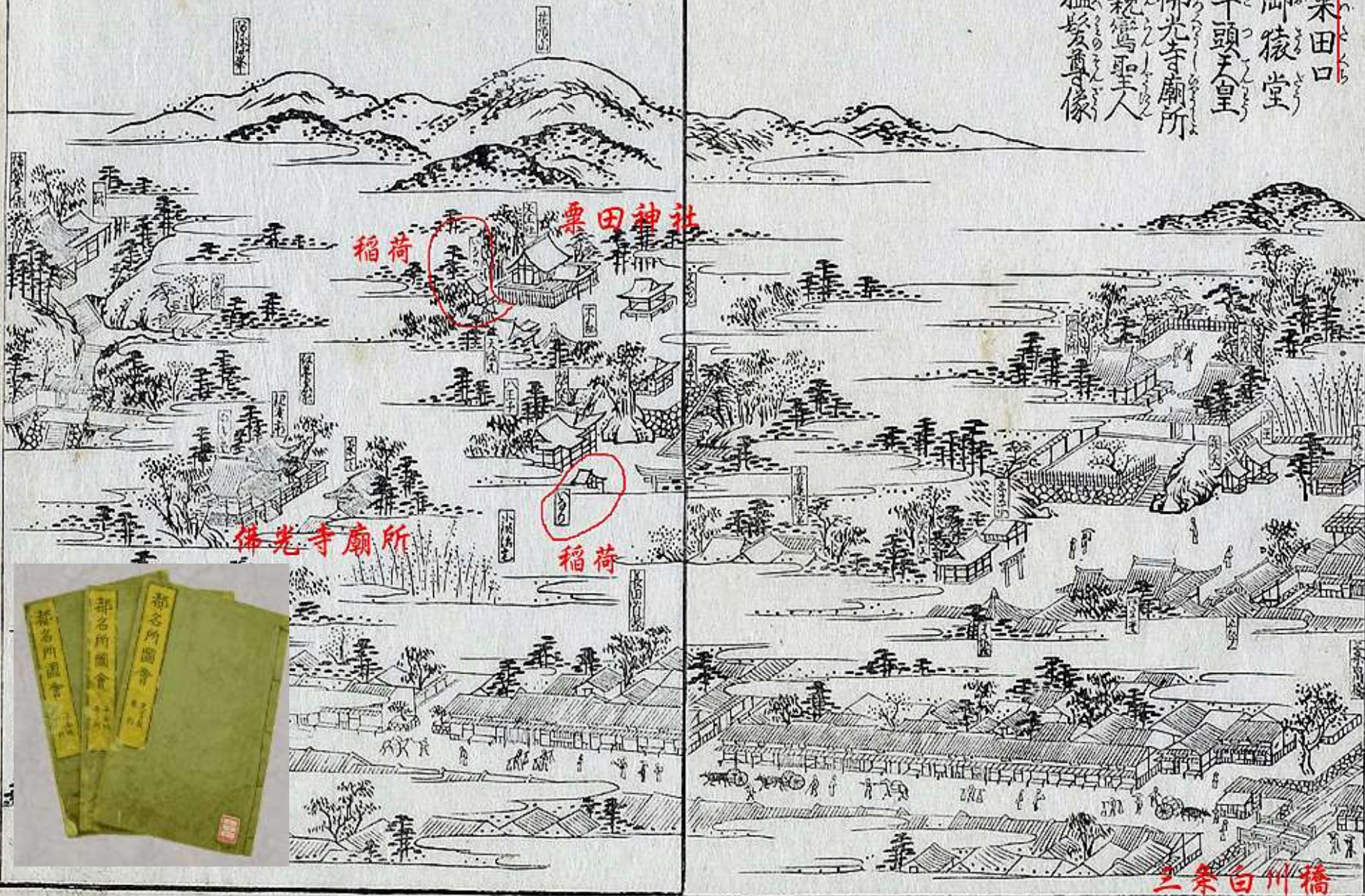


拾遺都名所図会(1787)に描かれた栗田口

拾遺都名所図会データベースより

栗田神社・稲荷神社(2ヶ所)仏光寺御廟 白川橋の名前などが見える

栗田口
御猿堂
午頭天皇
佛光寺廟所
親鸞聖人
植髮尊像



拾遺都名所図会(1787)に描かれた栗田 <http://blog.livedoor.jp/mudamoe/archives/6036433.html>

栗田神社・稲荷神社(2ヶ所)仏光寺御廟 白川橋の名前などが見える

謡曲「小鍛冶」と三条宗近の名刀「小狐丸」作刀の伝承地

◎ 山科花山稻荷神社



京都栗田口に住む刀工(小鍛冶)三条宗近が夢枕に立った信仰する稻荷明神の狐姿の化身を相槌に名刀「子狐丸」を打ち上げたという謡曲「小鍛冶」
この伝承が刀工三条宗近が住んだという京都三条栗田口や稻荷伝承が残る山科にある。
すぐ北に連なる東山如意ヶ岳周辺は古代の鉄鉱石資源帯 南西の麓栗田口には数多くの陶工
たちの鍛冶屋敷があり、また 稻荷山が見晴らせる南麓の山科には古代の製鉄遺跡が数多く残る。
古代の製鉄関連地の刀鍛冶の伝説と稻荷信仰とが合体してできた曲といわれる。



山科 花山稲荷神社 「稲荷塚」稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説

謡曲「小鍛冶」 名刀工三条小鍛冶宗近の相伝は稲荷大明神



京都市地下鉄東西線嵯峨辻駅地下通路 山科花山稲荷神社 名刀「小狐丸」の伝説
謡曲「小鍛冶」の伝説として ほかの地にも伝承されている

三条小鍛冶が作ったと伝承される鍛冶場伝承地 遠光宮が祭られている「稲荷塚」

本殿 右側の赤い玉垣の中にあり、「稲荷塚」の石碑と元禄十二年(1699年)の銘のある石灯籠の基部が残る。また、この辺りは環濠の跡も残る中屋遺跡の北端にあたり、弥生時代後期の円墳と言われる。遠光宮の御祭神などと考え合わせると、稲荷大神を勧請する前から鍛冶(製鉄)の神として祭られていたようにも思われます 花山稲荷神社ホームページより

- ◆ 古代の鍛冶伝承・稲荷伝承の残る京都山科に坂上田村麻呂の墓を訪ねる
●坂上田村麻呂墓 ●西野山山麓の鍛冶伝承地 花山稲荷神社 ●稲荷伝承の折上稲荷

<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607nishinoyama00.htm>

- ◆ 京都山科に古代のたたら跡 如意ヶ岳南製鉄遺跡群を訪ねる 2013.8.26

<https://www.infokkna.com/ironroahd/2013htm/iron09/1309yamashina00.htm>

- ◆ 稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稲荷大社へ 2016.9.13.

<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>



京都山科に残る稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説



謡曲「小鍛冶」のもととなった山科花山稲荷の名刀「小狐丸」の伝承

名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神

山科盆地の北部 大文字山から比叡山へと連なる山並みの山中には鉄鉱石があり、そこから山科盆地を流れ下る山科川はかつて砂鉄の産地だったといい、山麓には如意ヶ岳南製鉄遺跡群と呼ばれる古代たたら跡が点在する。また、この山科盆地は天智天皇の御陵に象徴される古代王城の地でもあった。以前 この山科盆地北部のたたら跡を訪ねた時に、この地にも 古い鍛冶伝承が残っていると思いながら、よう見つけなかった。

今回 西野山の坂上田村麻呂の墓を訪れる機会に西野山周辺を歩こうと地下鉄 柳辻駅へ降り立ち、駅の地下通路の壁のタイルに上記した山科の鍛冶伝説を伝えるタイルをみつけ、一緒に訪ねてきました。

山科花山稲荷に伝わる名刀「小狐丸」の伝承

ある夜、一条天皇(980~1011年)が不思議な夢を見られて、当時名工として知られた三条の小鍛冶宗近に御剣を打つことを命ずる為、橘道成を勅使として遣わされました。

宗近は宣旨を承りはしたものの、一人では御剣を打つことが出来ません。相槌に優れた者が居なくて困った宗近は、神にすがりより仕方ないと思い、氏神である稲荷明神に祈願のために出かけます。

すると一人の童子が現れて、不思議にもその童子は既に勅命を知っており、「君の恵みによって御剣は、必ず成就するであろう」と安心させます。そして、和漢の銘剣の威徳や故事を述べ、特に日本武尊の草薙剣の物語を詳しく語って聞かせ、「通力の身を変じて力を添えよう」と言って、稲荷山に消えていきます。

宗近は屋敷に戻って、しめ縄を張った壇をしつらえ、童子の教えのままに剣を打つ支度を調べて、祝詞を唱えて待ち構えていると、稲荷明神からの使いの狐が現れて、相槌となって御剣を打つのを手伝ってくれたのでした。やがて御剣は完成し、表に小鍛冶宗近、裏には小狐と銘を入れ、勅使に捧げると、狐は再び稲荷山に帰っていく。





琵琶湖疎水 蹴上インクライン 2019.10.9.

南禅寺からまっすぐ坂道を下ると琵琶湖疎水のインクラインをくぐる橋の上
北側に鴨川に続く琵琶湖疎水の船着き場が見える

反対側は蹴上へ登るインクライン 蹴上から琵琶湖疎水の山科運河に入って
琵琶湖へ出る。 また この琵琶湖疎水の水を使った水力発電所を使って
日本で初めて京都で市電が走った。



疎水に沿って西へ下り、途中で南に折れると東山を越えて並行に走る三条通り
この三条通り界隈が京口の一つ栗田口 2019.10.9.



蹴上から長い坂道を京都の街に下ってくる山上通り 栗田口 2019.10.9.

栗田口は東山を越えて京都へ入る坂道 四条通の
東側蹴上から西の神宮道までの界限
かつてこの界限には数多くの鍛冶職が住まいし、
鍛冶職たちが信仰する稲荷信仰とが融合した
鍛冶伝承が生まれたという。



◆ 南禅寺から疎水べりを通して西へ下り、蹴上からの長い坂道三条通に出れば粟田口謡曲「小鍛冶」の舞台に残る鍛冶伝承の痕跡を訪ねて歩く。

2019.10.9. walking Map





栗田口は東山を越えて教徒へ入る坂道三条通の
東側蹴上から西の神宮道までの間界限だそうだ



[illegible][illegible]

疎水沿いの道から南へトラバースして三条通りに出るとすぐ前に粟田神社の赤い鳥居が見える。
粟田口にある一番大きな神社。 何度も前を通過したことがある神社ですが、境内に入ったことがない。
鍛冶伝承をキーワードに粟田口を歩くのに、まずお参りしておこうと三条通りを南に渡り、粟田神社へ。
そして、鍛冶伝承で訪ねる鍛冶神社・合槌稻荷神社がこの粟田神社の摂社であると初めて知りました。
絵馬を売るおばさんは詳細は知らないが、鍛冶神社は入口の石の鳥居横・合槌稻荷神社はまっすぐ正面を出て四条通の向かいの赤い鳥居と教えてもらった。



三条通の坂道の中ほど赤い鳥居が建つ粟田神社参道入口前

2019.10.9.





三条通り 栗田口 栗田神社入口前

2019.10.9.



栗田祭

京の祭
一千年の歴史



令和元年 10月

12日(土)

18:00~ 神賑行事
石見神楽・夜店
22:00~ 出御祭
おいてまつり

13日(日)

17:30~ 夜渡神事
大燈呂巡行

14日(祝)

12:00~ 神幸祭
神輿渡御・剣鉾巡行

15日(火)

11:00 例大祭
式包丁奉納

旅立守護
栗田神社

御祭神：スサノオノミコト
オオナムチノミコト
所在地：東山区栗田(鍛冶町)
TEL：075-531-3154
HP：http://www.mjpa.jp



鍛冶神社(末社)

境内図

栗田神社

栗田神社

旧称 感神院新宮
栗田八大王子社

祭神

建速素盞鳴尊

大己貴尊

左殿 八嶋小奴美神

五十猛神

大座守神

大座枝神

右殿 奇稲田媛神

神大市袋神

佐須良媛神

外殿 竹生嶋社

藤田彦社

合祀 日吉社

和歌三神

手刀雄社

宗徳天皇

由緒

古くは山城國愛宕郡下栗田郷に属し、栗田郷は上栗田（北白川・津上寺・底谷・谷・岡崎）下栗田（三條以南）に分かれ、この地は上古のころ孝昭天皇（人皇主代）の皇子天足彦國押人命を祖とする一族が住み、蘇物と穿ち栗や武を主食として中古熱田神宮が奉祀され、や（蘇熱田の社人として移り土地名を残すものと云われ、その武神として上古より神あり）が人皇五十六代清和天皇貞観十八年（八八六）悪疫流行のため奉行藤原興世に勅して都の東白雲の泡立つ郷の靈地に一社を建つ、これ當社の社位による創祀である。又往う往古八坂神社を感神院と稱するに對し、当社を感神院新宮と稱し、祇園会無き年は當社の祭礼として祇園会の代りとなす記録あり、依りて当社祭礼は祇園会の始めの形なりと云う。

御神徳

祭日

厄清波（厄清波）商工経営 縁結び安産 旅行安全
十月九日出御祭 夜渡り神事 十日神幸祭 十五日大祭
神幸祭には鉦鉦の盥洗たる阿古陀鉦（鉦）を始め地祇鉦
首拜 桐鉦 其他鉦數十本の鉦鉦の供奉は特に美麗なり

摂末社

一 稲荷社 祭神 倉稲魂命
由緒 應永二年青蓮院門跡尊因親王勸請北向稲荷神社と稱す
注古三條小飯坂余近の道に因親ある神祇と記さるる云う

二 惠美須社 祭神 事代主神
少名彦神

由緒 当社より東約一軒末の奥谷と稱する處に鎮座ありし、
六百年前大出水山崩れの爲流出止まり給ひ、處を現在奥
所と稱す、源義経奥州下向の時源家再興と祈願せしに、神
像は二、三、余年六前佐救大師の自作と云、出世惠美須神社と稱す

三 大神宮 祭神 天照大神 八幡社
重愛媛神 春日社

由緒 在原兼平卿伊勢の齋宮の宮と結ばれ、その子孫高陽の
奉宮出来ず自宅に社と奉祀す、京三大神宮の一社なり

四 多賀社 祭神 伊弉諾大神 由緒 東宮院門跡内に社あり、祭記す
伊弉諾大神 由緒 東宮院門跡内に社あり、祭記す

五 天満宮社 祭神 菅原道真公 世に朝日天満宮と稱し、洛東三十五社の
一社なり

六 鍛冶社 祭神 天目神 王孫守道り直の
由緒 鍛冶師の神と稱す、由緒 鍛冶師の神と稱す

七 吉兵衛神社 祭神 吉兵衛 兩社共栗田の地の守り神
太郎兵衛神社

京の七口の一つ栗田口に鎮座し、この地の氏神様として、また、古くから旅立ち守護の神として崇敬を集める。祭神は素盞鳴尊、大己貴命。そして、摂社に鍛冶神社がつながっていることなど、鉄の王国出雲の鍛冶神とのつながりをもうかがわせる神社である。



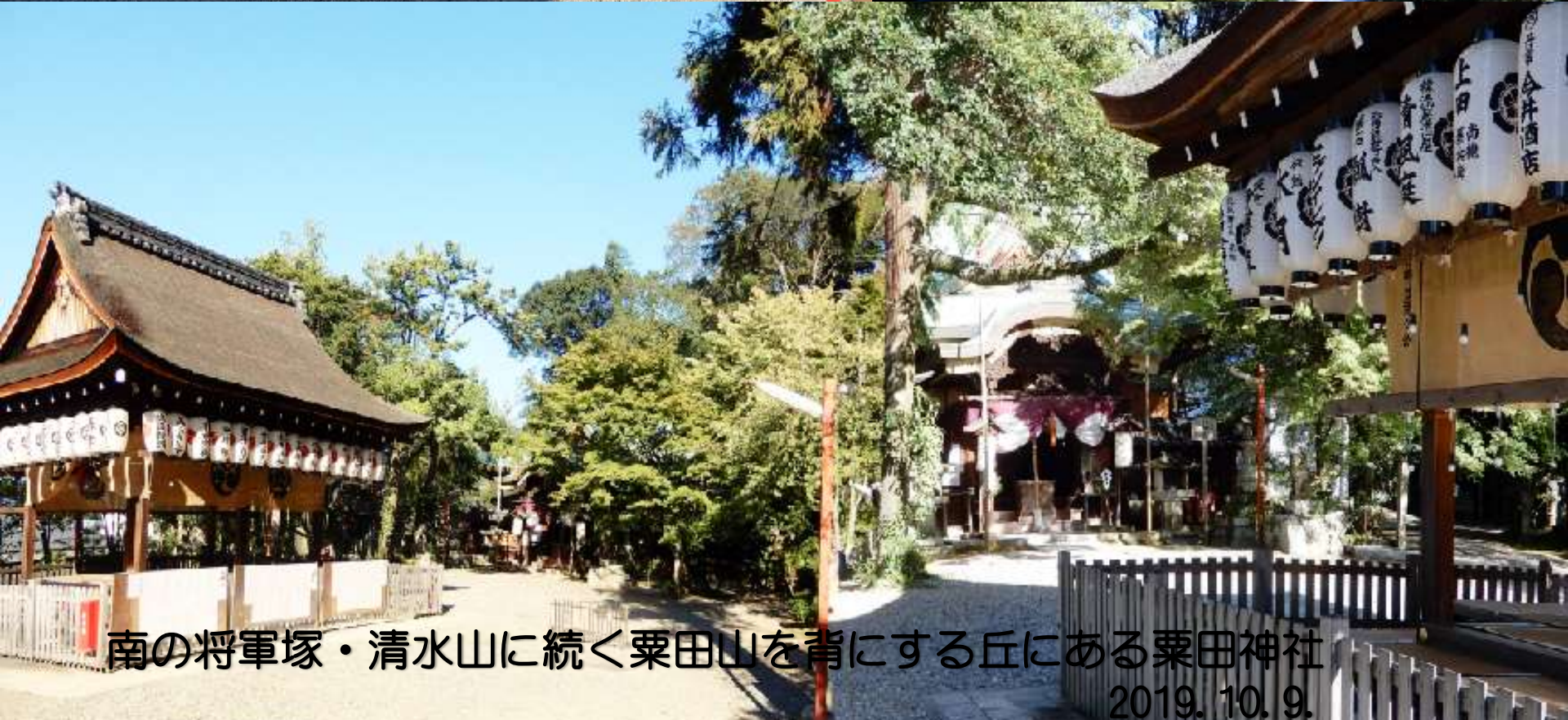
粟田神社参道 石鳥居前 2019. 10. 9.
三条通りから一筋南に入ると静寂そのものです



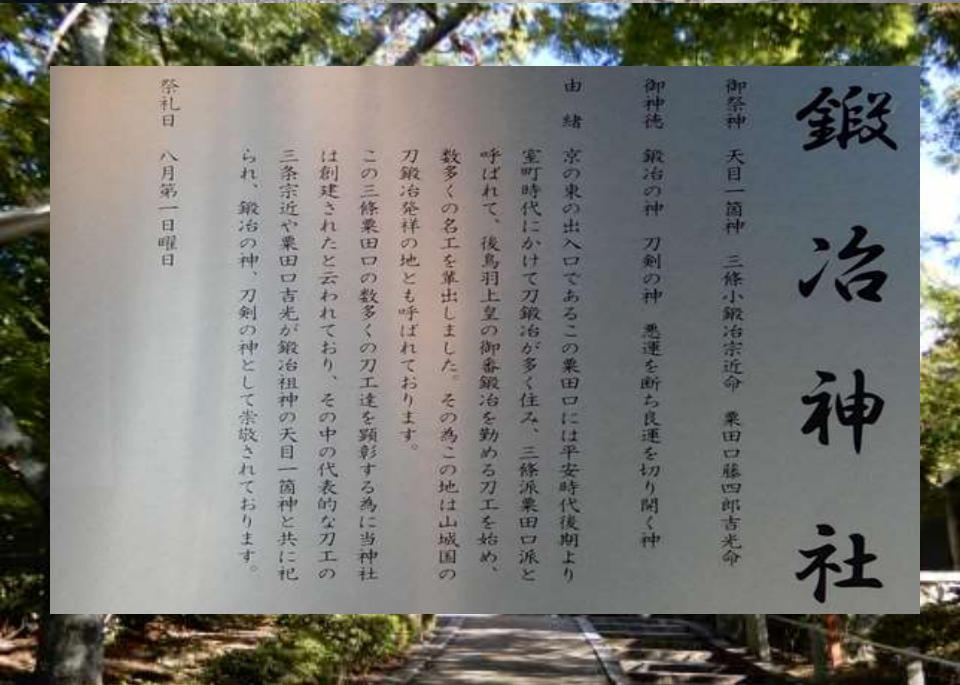
栗田神社参道 石鳥居前 2019. 10. 9.

参道の坂道を登った丘に本殿がある。また、参道の左脇が駐車場になっていて、その中に鍛冶神社

また、左手に三条通よりも一つ南に入った道に沿って家並みがつづくが、この周辺が鍛冶町 もう、鍛冶の痕跡は残っていないが、かつてはこの東山の山裾の傾斜地に多くの鍛冶屋敷があったようだ。



南の将軍塚・清水山に続く栗田山を背にする丘にある栗田神社
2019. 10. 9.



鍛冶神社

御祭神 天目一箇神 三條小鍛冶宗近命 粟田口藤四郎吉光命

御神徳 鍛冶の神 刀剣の神 悪運を断ち良運を切り開く神

由緒 京の東の出入口であるこの粟田口には平安時代後期より

室町時代にかけて刀鍛冶が多く住み、三條派粟田口派と呼ばれて、後鳥羽上皇の御番鍛冶を勤める刀工を始め、数多くの名工を輩出しました。その為この地は山城国の刀鍛冶発祥の地とも呼ばれております。

この三條粟田口の数多くの刀工達を顕彰する為に当神社は創建されたと云われており、その中の代表的な刀工の三條宗近や粟田口吉光が鍛冶祖神の天目一箇神と共に祀られ、鍛冶の神、刀剣の神として崇拝されております。

祭礼日 八月第一日曜日



鍛冶神社 祭神は天目一筒神 三条小鍛冶宗近・栗田口藤四郎吉光。
この栗田口の数多くの刀工たちの顕彰のために創建されたというが、定かでない。

栗田神社鳥居前より、鍛冶町の家並の中坂道を三条小鍛冶古跡の碑がある佛光寺本廟まで行って、そこから三条通りに出て合槌稻荷神社へ。
そこから三条通を西へ栗田口の西端白川橋まで歩いて今日の栗田口walkを完了に



『拾遺都名所図会』:佛光寺本廟境内に刀剣を鑄るときに用いた井水があったという



栗田口鍛冶町 栗田神社 石の鳥居前 2019. 10. 9.
古代この蹴上へと続く東山の山裾の傾斜地に多くの鍛冶屋敷が続いていた。
今は三条通を一筋入った道筋 そんな繁栄の槌音もきこえぬ静かな街並みが続く

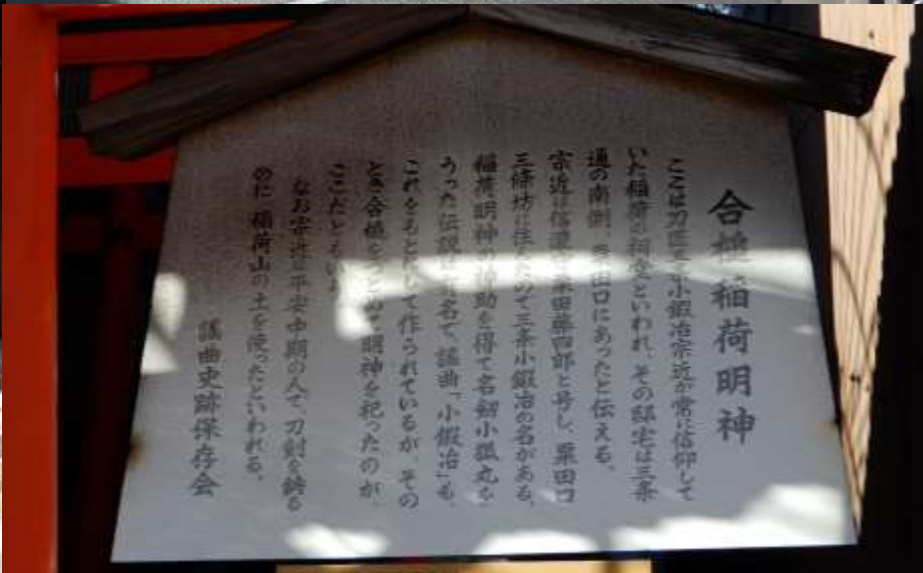


佛光寺本廟前 三条小鍛冶宗近之古跡の石碑があると聞きましたが、
様子がよくわからず、今回は境内に入って本堂前から引き返しました

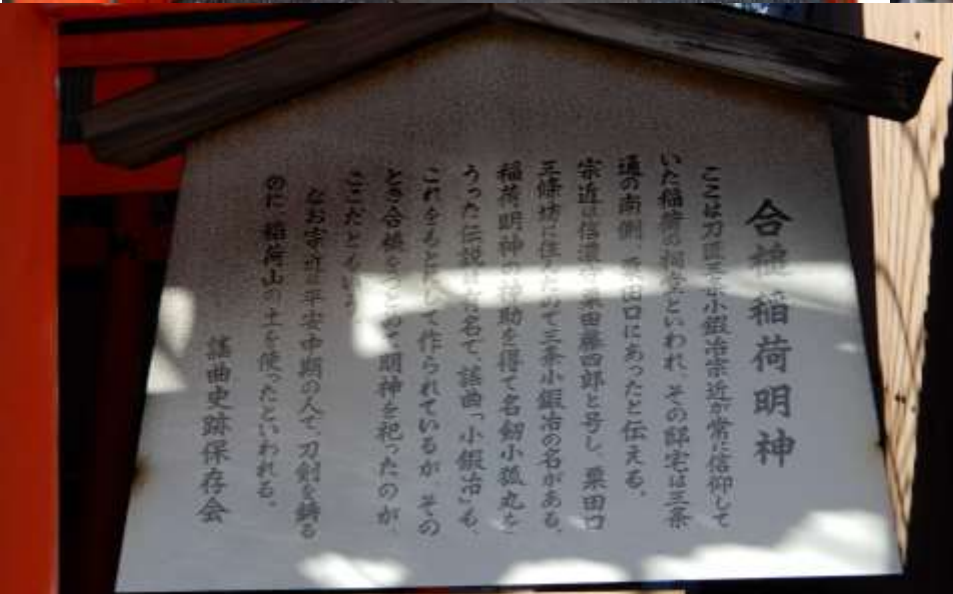


佛光寺 本堂





三條通 栗田神社の赤い鳥居の向井側に合槌稻荷神社の入口がありました



合槌稲荷神社

2019. 10. 9.

三条通りの北へ町家の間の狭い路地の奥



今もこの街の人々の信仰を集め、愛されている姿
町家の中に埋もれて、新らしく整備された合槌稲荷神社がありました





栗田口の西端 三条通にかかる白川橋で 2019.10.9.

銀閣寺奥から南の祇園へ流れ下って行く白川

今日は静かですが、休日ともなれば多くの人が行き交う場所
都絵図に描かれた人の賑わいが今も残る場所かもしれません

栗田口は東山を越えて京都へ入る坂道 旧東海道
三条通の東側蹴上から西の神宮道までの界限
かつてこの界限には数多くの鍛冶職・刀鍛冶が住
まいし、彼らが信仰する稲荷信仰とが融合した
鍛冶伝承が生まれたという。



鹿ヶ谷から若王子山上 新島襄の墓・駒ヶ滝の行場から南禅寺へ
東山の山裾を巡り、謡曲「小鍛冶」に謡われる鍛冶伝承地
京都七口の一つ 三条通 栗田口を訪ねました 2019.10.9.



参考：和鉄の道・Iron road 掲載 関連主要記事



- ◆ 古代の鍛冶伝承・稲荷伝承の残る京都山科に坂上田村麻呂の墓を訪ねる
● 坂上田村麻呂墓 ● 西野山山麓の鍛冶伝承地 花山稲荷神社 ● 稲荷伝承の折上稲荷
<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607nishinoyama00.htm>
- ◆ 京都山科に古代のたたら跡 如意ヶ岳南製鉄遺跡群を訪ねる 2013.8.26
<https://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1309yamashina00.htm>
- ◆ 稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稲荷大社へ 2016.9.13.
<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>
- ◎ 鉄の風景・鉄のモニュメント京都 史跡 琵琶湖疎水 蹴上 2015.11.7.
「日本最初の発電所 蹴上発電所 水圧鉄管」と「インクライン」
<http://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/iron11/1512keage00.htm>
- ◎ 京都 祇園祭 2011 2011.7.16.夕 宵山 & 2011.7.17. 山鉦巡行
<https://www.infokkna.com/ironroad/2011htm/walk8/1108gion00.htm>

鹿ヶ谷から若王子山上 新島襄の墓・駒ヶ滝の行場から南禅寺へ 東山の山裾を巡り、謡曲「小鍛冶」に謡われる鍛冶伝承地 京都七口の一つ 三条通 栗田口を訪ねました 2019.10.9.

◎鹿ヶ谷 泉屋博古館の特別展見学とゆったりと時が流れる東山遠望

◎若王子山上にある同志社創立者新島襄の墓所から南禅寺へ下る

◎謡曲「小鍛冶」に謡われる鍛冶伝承地 京都七口の一つ栗田口

京都東山の鹿ヶ谷にある泉屋博古館に出かけるのを機会に以前から気になっていた京都東山
山麓 鹿ヶ谷泉屋博古館を起点に若王子山を登り、静寂の中で眠る新島襄の墓にお参り。

山中 幻想的な雰囲気漂う駒ヶ滝の行場から南禅寺へ。

そして、今日一番の目的 謡曲「小鍛冶」に謡われた鍛冶伝承の地 東山越京口の栗田口を
訪ねる古代の鍛冶伝承地の痕跡walk

快晴に恵まれ、久しぶりの初秋京都のぶらぶら歩きを楽しめました。

良く知る東山界隈ですが、知っているようで知らなかった界隈

また一つ新しい道と発見 うれしい初秋京都東山山麓歩きが出来ました。

久しぶりに訪れた博古館と好きな十二神将に出会えるなど久しぶりの仏像観賞

そして、知っているようで知らなかった東山の山裾 若王子山

念願の新島襄の墓参り、幻想的な駒ヶ滝の行場 そして、山道のあちこちで見かけた

鉄含有の赤い土。古代の鉄資源の山の痕跡 稻荷明神・鍛冶伝承のルーツかも

初めて鍛冶伝承の地としてその痕跡を楽しみに歩いた「栗田口」

具体的な痕跡は見られませんが、鍛冶町の名前そして現代的になってはいるが、

鍛冶神社・合槌神社が存在。何よりも古代からの多くの人が行行き来し、

繁栄した旧東海道の雰囲気が残る街並みも色タイメージが膨らんでうれしい。

今も街の中心に「栗田神社」。出雲神・鍛冶神 素盞鳴尊、大己貴命が御祭神。

祇園祭の主役長刀鉾の剣か小鍛冶伝承の三条宗近奉納の剣であることなども含め

この栗田口が鍛冶町だったことを今も連綿として受け継いでいると感じた街歩きでした。



石屋の街を、半人住及創世館の跡、大谷川沿いに上ると、山頂の山道。石屋の町を半人住と創世館の跡、大谷川沿いに上ると、山頂の山道。2019.10.9.

石屋の山頂へ登って、山頂。2019.10.9. ところどころに切り石が敷き詰められた雑木林の中の山道を山腹に沿って登る。



同志社の創立者新島襄と左 妻八重の墓 2019.10.9.

曲道の岩壁をまわって、洞窟の入り口の小さな竈屋の前。階段を登って洞窟の中へ。2019.10.9.

行場前の橋からながめる駒ヶ滝全景 2019.10.9. 橋くぐってよく見えなかった行場がよくわかるのですが、中央の駒の滝は明るすぎてよく見えません。

